学位論文審査の要旨

<table>
<tr><td>学位申請者</td><td>佐藤（船木）聡美
【人間発達科学専攻　平成１７年度生】</td><td rowspan="9">要　　　　旨

佐藤氏は、小児がんの母親は、このメディカルトラウマに加えて、子育て中のすべての母親に共通する子育て不安を有するという特性に着目し、小児がんの子どもの支援には、子育て不安への対応も考慮した方策が必要であるという視点で以下の4つのリサーチクエスチョンを抽出した。
１．　日本の小児がんの子どもの母親のメディカルトラウマの程度はどのくらいか。
２．　メディカルトラウマと子育て不安はどのように関連するのか。
３．　対応方策やソーシャルサポートはメディカルトラウマと子育て不安を軽減するか。
４．　メディカルトラウマと子育て不安に影響を及ぼしている他の変数はなにか。
佐藤氏は上記のリサーチクエスチョンに答えるために、全国の８つの基幹医療施設で治療を受けた104人の母子に対して質問紙法によってメディカルトラウマの程度、子育て不安（及び肯定感）とメディカルトラウマの関連を調査した。その結果メディカルトラウマと子育て不安は中程度の有意な相関を持つが、子育て肯定感はメディカルトラウマと有意の負の相関を持つことを見出した。ついで同対象の自由記述をKJ法によって分析し、小児がんの子どもの母親に見られる心理的問題が4つのカテゴリーに分類されることを見出した。
これらの調査結果をもとに、実際にがんの子どもをもつ母親2人にKazakの提案したメディカルトラウマへの心理面接の指針に沿ったエビデンス実践を行った。その結果「がんの子どもでも成長してゆくことに母親の目を向ける」「苦痛の反復（＝再発）を想定した環境調整」などの新たな視点を見出すことができた。
本論文は、日本の小児がんの子どもの母親のメディカルトラウマと子育て不安のユニークな関連について、初めて新規な視点をあたえるだけでなく、母親への心理的支援における実践的な知見を明らかにしたものということができる。

　平成25年6月26日の初回の審査会では、統計的手法や結果の解釈、引用文献などに不十分な点があったが、審査委員の指摘に沿って修正され、7月31日の第2回審査会で、大部分修正がなされたことが認められた。8月21日の3回目のプレゼンテーション後の審査で、公開審査会を開催するに十分な内容になったことが確認された。最終試験は平成25年8月28日に生活科学部本館カンファレンス室にて開催され、公開審査会にて審査委員及び学内外の出席者からの質疑に対して的確な回答がなされた。公開審査会に引き続いて行われた最終審査会において、論文の質の高さ、プレゼンテーションの明確さ、さらに質疑の的確さなどから本論文が博士（人文科学）、Ph.D. in Clinical Psychologyにふさわしいと判断し、合格とした。</td></tr>
<tr><td>論文題目</td><td>小児がんの子どもをもつ母親の心理的問題
―メディカル・トラウマと子育て不安の関係―</td></tr>
<tr><td rowspan="5">審査委員</td><td>（主査）　教　授　　榊　原　洋　一</td></tr>
<tr><td>教　授　　菅　原　ますみ</td></tr>
<tr><td>准教授　　上　原　　　泉</td></tr>
<tr><td>教　授　　沼　部　博　直</td></tr>
<tr><td>横浜国立大学准教授　泉　　　真由子</td></tr>
<tr><td>インターネット公表</td><td>○　学位論文の全文公表の可否（　否　）

○　「否」の場合の理由
ア．当該論文に立体形状による表現を含む
㋑．著作権や個人情報に係る制約がある
ウ．出版刊行されている、もしくは予定されている
エ．学術ジャーナルへ掲載されている、
　　もしくは予定されている
オ．特許の申請がある、もしくは予定されている

※　本学学位規則第２４条第４項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</td></tr>
</table>